9月は「がん征圧月間」

安心を 明日につなぐ がん検診

日本人の2人に1人がかかるといわれるがんは、早期発見できれば、決して治らない病気ではなくなっている。治療技術も進歩しつつあり、全国同様、鳥取県でもがんによる死亡率は低下傾向にあるが、がんによる死亡者をさらに減らしていくためには、依然としてがん検診の受診率向上が課題に挙がる。9月は日本対がん協会が定めた「がん征圧月間」。予防に大切な知識などを広めるこの機会に、がん医療に関わる医師の考察や自治体、企業の取り組みなどを紹介する。

鳥取大医学部付属病院
がんセンター長
小谷 昌広氏

受診率低下 回復鈍く

症状出る前の早期発見重要

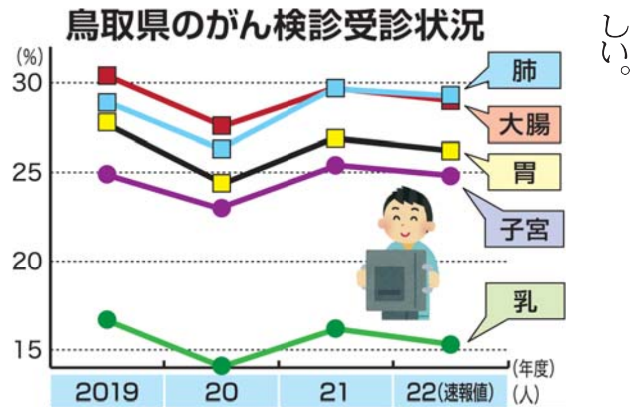
コロナ禍で低下したがん検診の受診率が、なかなか元に戻らない。2021年度に持ち直したものの、22年度の速報値では予想に反してやや低下した。新型コロナの感染拡大が一因だとは思うが、検診の習慣が戻っていない人もいると思う。特に60代の回復が鈍い。がんにかかる人が多い年代でもあり、働き盛りの人はもちろん、退職後も継続して検診を受けてほしい。

そもそも、日本のがん検診の受診率は欧米などに比べて低く、底上げが必要だと感じている。例えば、欧米では乳がん検診の受診率が8割近いが、日本では対策型検診と任意型検診を足しても半数に満たない。

何より重要なのは、自覚症状が出る前の早期に発見し、がんで亡くなる人を減らすことだ。鳥取県のがんの75歳未満年齢調整死亡率は、19年は全国45位だったが、20年は23位と改善した。第3次鳥取県がん対策推進計画の目標値を達成しているが、今後も努力を続けていく必要がある。

がん予防のために▽禁煙▽節酒▽運動▽減塩▽適正体重の維持－という五つの健康習慣をまず実践し、その上で早期がんを発見するためにがん検診を定期的に受けてほしい。人間ドックなどの任意型検診で、ピロリ菌の検査や腹部超音波検査（エコー）などを積極的に受けることも重要だ。また、かかりつけ医によるがん検診の勧奨が有効であることは科学的に証明されている。ぜひ、信頼できるかかりつけ医を見つけてほしい。

鳥取県のがん検診受診状況



2019	20	21	22（速報値）	（人）
54,671	49,733	53,894	53,235	肺
57,476	52,107	53,884	52,616	大腸
52,494	46,168	48,744	47,526	胃
32,318	29,851	30,942	30,196	子宮
19,228	16,249	17,631	16,698	乳

鳥取大医学部付属病院
消化器・腎臓内科学分野准教授
八島 一夫氏

命を守る内視鏡検査

胃がん予防にピロリ菌除菌

日本のがん罹患数のうち、胃がんは3位に入る。死亡数も同じだが、男性は女性より多く、注意が必要だ。鳥取県の2022年度検診受診率は26・2％で、目標（50％）に至っていない。原因はピロリ菌が約90％を占め、感染すると85歳までに男性で5人に1人、女性で10人に1人が胃がんになる可能性がある。

除菌で発がん確率は3分の1程度に減る。さらに早期の除菌が有効性を高める。ただしゼロではなく、除菌後に内視鏡検診を受けないと進行がんで死亡するケースもある。定期的に内視鏡検診を受けてほしい。また、胃がん予防は若年期の除菌が理想で、中高生に尿検査などでピロリ菌検診を行っている自治体もある。

大腸がんは罹患数が第1位、女性の死亡数も第1位となっている。早期はほぼ自覚症状がない。だが、血便や便秘、腹痛などで分かったときは進行しており、転移していると手術では助からないので、抗がん剤治療になってしまう。死亡率は1970年代から3倍以上増加している。かなり危険ながんではあるが、早期に診断されれば命を落とすことはほとんどない。

適切な食生活習慣は大腸がんを予防するが、完全ではない。症状がなく、リスクが低くても検診を受け、症状があれば医療機関を受診してほしい。便潜血があっても、内視鏡検査を受ける人は8割に満たず、特に働き盛りである40～50歳代は精密検査に対する意識が低い。命を守る内視鏡検査に前向きになってほしい。

がんの罹患数（男女計／2019年）

	胃	大腸	肺
全国	124,319	155,625	126,546
鳥取県	749	736	663

鳥取県のがん死亡数（人／2019年）

【男性】

	部位		部位
1	肺（289）	7	胆のう・胆管（42）
2	胃（174）	8	悪性リンパ腫（40）
3	大腸（149）	9	腎など（33）
4	肝臓（100）	10	皮膚（5）
5	膵臓（97）		その他（191）
6	前立腺（61）		

【女性】

	部位		部位
1	大腸（127）	7	胆のう・胆管（62）
2	肺（113）	8	悪性リンパ腫（34）
3	膵臓（108）	9	甲状腺（9）
4	胃（89）	10	皮膚（8）
5	乳房（68） 子宮（68）		その他（189）

鳥取大医学部付属病院
病院長
武中 篤氏

がん治療 大きく進化

体に負担少ないロボット手術

がん治療の3本柱である手術、放射線治療、薬物治療は、この数年で大きく進化した。ロボット手術などの低侵襲手術、コンピューター制御による精度の高い放射線治療、免疫チェックポイント阻害剤などを駆使し、がんは一部を除いて〝治る病気〟になりつつある。

国内の先駆けとして当院が推進してきたロボット手術は現在、全国に普及し、標準治療の一つとしてさまざまな診療科で活用されている。8㍉の鉗子、肉眼の約10倍の拡大視野で非常に精緻な手術ができ、患者さんの体の負担の軽減、術後の生活の質（QOL）の向上など、多くのメリットがある。

当院の手術支援ロボットは、今春新たに導入した「ヒューゴ」を含めて国内初の3社4台体制となった。全国でもトップレベルの設備であり、安全性やチーム医療などソフト面にも力を入れている。ロボット手術を一つの強みとして存在価値を高め、今後も地域住民の健康を守るという大学病院の使命を果たしていきたいと考えている。

ただ、治療が発展したとはいえ、進行がんの状態で見つかると、治療の負担は増す。高齢の患者さんであっても、がんの性質などによって積極的な治療が必要な場合もある。低侵襲治療を役立ててもらうためには、やはりがんをできるだけ早期に発見することが重要だ。定期的ながん検診の受診に加え、おかしいと感じたら、かかりつけ医に相談してもらいたい。

国内初の３社４台体制となった鳥取大医学部付属病院の手術支援ロボット

ピロリ菌検査実施状況

鳥取県内7千人超受診

県が助成、独自策の自治体も

近年のピロリ菌感染は多くが乳幼児期に親から子へと家族感染し、その後、持続感染することで、慢性胃炎から萎縮性胃炎、胃がんへと進行することが分かっている。胃がんによる死亡率が全国に比べて高い鳥取県は、胃がん発症リスクを低減しようと、ピロリ菌検査の実施費用の一部助成に取り組んでいる。

市町村と連携して行う胃がん対策として、ピロリ菌検査への助成は2020年2月から継続中。20年は407人、21年は272人が受診した。

また、人間ドックなどで18～22年度まで実施した40、45、50、55歳の全国健康保険協会（協会けんぽ）加入者対象の同検査受診者は約7千人だった。

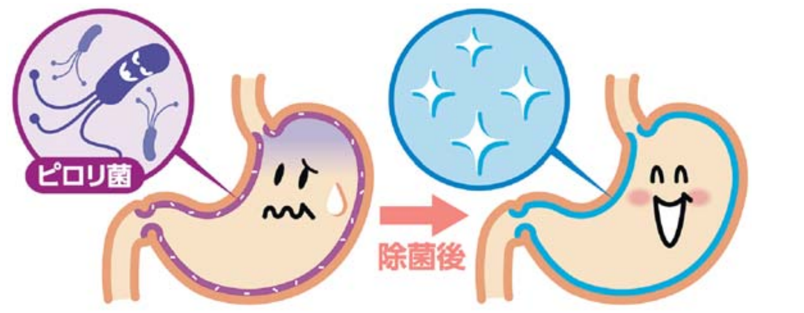
検査受診後、ピロリ菌感染の疑いがあれば、市町村や協会けんぽなどの実施主体は、精密検査を行って陽性なら除菌することを勧めている。しかし、実際のところ、ピロリ菌感染の疑いがあった「要検査以上」の人が、陽性か陰性かを判定する「精密検査」を受けた割合は、20年が37・2％（141人）、21年が43・5％（218人）となっている。

また、現在、独自でピロリ菌検査を行う県内市町は伯耆町、北栄町（中学3年生対象）、日野町（同）、琴浦町（中学2年生対象）の4町。日野、琴浦両町は本年度から実施した。

中学3年生を対象に9年目を迎える北栄町は、若年期に感染の有無を確認し、除菌治療につなげることが予防効果が高いと考えた。また家族感染が疑われることで、大人への啓発効果も期待した。これまで中学3年生の平均70～80％が検査を受け、受診者全体の3～4％に当たる陽性者のほぼ全員が除菌している。

鳥取県のピロリ菌検査実施状況 ※単位は人

	（年度）	2018	2019	2020	2021	2022	合計
協会けんぽ（対象）40・45・50・50歳	受診者	1,394	1,358	1,388	1,464	1,419	7,023
	要検査以上	287	233	214	356	482	1,572
	精検受診者	151	108	93	194	135	681
市町村（対象）20～70歳	受診者			407	272	未集計	679
	要検査以上			165	145	－	310
	精検受診者			48	24	－	72
合計	受診者	1,394	1,358	1,795	1,736	1,419	7,702
	要検査以上	287	233	379	501	482	1,882
	精検受診者	151	108	141	218	135	753



がん検診、ピロリ菌検査受けて

鳥取県健康政策課長 山崎利幸

がん検診（内視鏡検査）を受けてみて、指摘があった方はピロリ菌の検査も受けてみましょう。ピロリ菌の除菌は胃がんリスクを低減させると言われています。まずは毎年のがん検診受診をお願いします！

鳥取県がん征圧大会概要

日時 **9月12日（火）**
午後１時半～同３時半

会場 倉吉未来中心 小ホール
（倉吉市駄経寺町）

主催 鳥取県
公益社団法人鳥取県医師会
公益財団法人鳥取県保健事業団

「安心を 明日につなぐ がん検診」をスローガンに鳥取県と県医師会、県保健事業団は12日、講演などを通じてがんの正しい知識と理解を深める「鳥取県がん征圧大会」を倉吉市の倉吉未来中心で開く。午後１時半～同３時半、無料。事前予約なしで入場できる。

がん征圧月間（９月１～30日）を機に、早期発見・治療の必要性を訴えて予防意識を高めると共に、対がん運動に対する理解と協力を求める。

知事表彰と感謝状贈呈のあと、県健康対策協議会子宮がん対策専門委員会委員長の皆川幸久氏が「子宮がんの予防を再考する」と題して特別講演する。

問い合わせは電話0857（26）7194、県庁健康政策課。

鳥取県は４月末現在、がん検診の受診啓発活動に積極的な県内1015の企業・事業者・団体を「がん検診推進パートナー企業」に認定している。取り組みの一端をパートナー企業の担当者に聞いた。

がん検診推進パートナー企業の取り組み

シセイ堂デザイン
（鳥取市吉方温泉3丁目）
取締役総務部長
植木美恵子氏

検診費用を全額負担

受診・適切な治療を勧奨

国が推奨する五つのがん検診（胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん）のほか、男性の前立腺がん検診を会社が費用を全額負担して、年齢に関係なく全社員に年1回受診してもらっている。受診率は2年前から90％を維持。マンモグラフィが嫌ならエコー、バリウムが苦手なら胃カメラを勧めるなど社員に寄り添い、受診勧奨してきた結果だと受け止めている。

ただ、より重要なのは受診結果を踏まえた次の行動だ。有所見者には受診結果の総合判定を知らせる書面を個別に作って配り、かかりつけ医などでの精密検査や再検査を促した上で、その結果報告を求めている。こうした働きかけを通じて、受診して終わりではなく、早期発見、適切な治療の大切さを痛感している。

「心と身体の健康が良い仕事を創る！」をスローガンにしていて、毎年新しい取り組みを会社で考え、楽しみながら実行している。社員の健康への意識向上を実感する今日この頃。来年度は専門家を招いて社員向けのがんの予防研修を開催したい。

健康につながる新たな取り組みを話し合う社員たち

日ノ丸西濃運輸
（鳥取市湖山町東3丁目）
執行役員総務部担当
西垣 研司氏

35歳以上 受診率100％

派遣検診車を活用、便利に

全社員（504人）の約8割に相当する35歳以上の全員が、胃や大腸のがん検診を含む生活習慣病予防健診を100％受けるようになって7年になる。長距離ドライバーや夜勤など職種、勤務形態がいろいろある会社だけに、誰もが受診しやすい環境をつくろうと、鳥取県内では鳥取県保健事業団にお願いして、検診車を会社に派遣してもらっていて、大半が検診車で受診している。

私自身も2年前、がん検診で大腸がんが見つかった。幸い早期発見で治療もうまくいき、命拾いした。近年ではほかにもこの検診でがんが見つかり、手術を経て職場復帰した社員もいる。早期発見・治療できれば、がんは治らない病気ではないことを改めて実感した。

2024年問題を抱える運送業にとって、人材確保は最重要課題。大切な社員を守るためにも、まずはがん検診を受けてもらい、有所見者に対しては、所属長から直接文書を手渡し、精密検査や再検査の勧奨を徹底している。

今後は、女性も働きやすい職場づくりを目指す上においては、女性特有のがんに対してもフォローできる体制をつくっていきたい。

県保健事業団が派遣する検診車

がん検診を受けましょう
（順不同）

外科・内科・麻酔科（佐々木知啓）・歯科
大覚寺クリニック
外科・内科 院長 佐々木 知啓 ☎（0857）26-6123
診療時間 月 火 水 木 金 土
8:30～12:30 ● ● ● ● ● ●
15:00～18:30 ● ● ● ／ ● 15:00～17:00
※休＝日曜・祝祭日
歯科 院長 名倉 秀 ☎（0857）54-1818
診療時間 月 火 水 木 金 土
9:00～13:00 ● ● ● ／ ● 9:00～12:00
15:00～19:00 ● ● ● ／ ● 14:00～17:00
※休＝木曜・日曜・祝祭日
鳥取市吉成206-1

内科・糖尿病内科・内分泌内科
医療法人葵会 **だんばらクリニック**
理事長 檀原尚典
内科 糖尿病内科 内分泌内科（甲状腺など）
日曜も診療しています 火曜は夜20:00まで
☎0857-54-1020 休診日/金・土・祝日
鳥取市富安330-1 だんばらクリニック

胃がん・大腸がん検診を受けましょう 血液でわかる検査を行っています。
医療法人医新会 **よろず**内科・消化器内科**クリニック**
院長 萬 憲彰
鳥取市美萩野1丁目118-4 ☎（0857）59-0433

内科・脳神経内科
医療法人社団 **ひまわり内科クリニック**
院長 谷口玲子
鳥取市雲山243-38
TEL0857-21-1133

健康診断・がん検診を受けましょう！
がんは早期発見、早期治療が大切です
鳥取県健康対策協議会
（鳥取県医師会・鳥取大学医学部・鳥取県）
会長 渡辺 憲
〒680-8585 鳥取市戎町317
TEL0857-27-5566 FAX0857-29-1578
https://www.kentaikyou.tottori.med.or.jp/

内科・消化器内科・整形外科・リウマチ科
やまもとクリニック
院長 山本寛子
☎0857-50-0066
〒680-0803 鳥取市田園町2丁目157番地
E-mail yamamoto-clinic@ymail.plala.or.jp

CT・内視鏡完備 おなかの専門クリニック
内科・消化器内科・内視鏡内科
片原ごとうクリニック
KATAHARA GOTO CLINIC
院長 後藤 大輔
鳥取市片原4丁目111 ☎0857-51-0510

社会医療法人 仁厚会
藤井政雄記念病院
病院機能評価認定 ISO9001 認証取得
代表電話 0858（26）2111

倉吉シティ内視鏡クリニック
院長 藤井 武親
内視鏡・検診センター長 藤井 政至
樽本 亮平
宮内 亘
倉吉市伊木215-3 TEL0858-24-5500

内科・腎臓内科・消化器内科・人工透析内科・在宅医療
医療法人 滉陽会 **のぐち内科クリニック**
NOGUCHI NAIKA CLINIC SINCE 2014
理事長 野口圭太郎
倉吉市上井町1丁目8-5 ☎（0858）24-6101
http://www.noguchi-naika.info

内科・消化器科・循環器科
医療法人 **イナカ内科医院**
院長 稲中義幸
土・日曜も診察
鳥取市正蓮寺43 ☎（0857）24-5167

医療法人 **松下内科医院**
松下浩志 松下公紀
鳥取市雲山113-1 ☎（0857）21-0002
FAX（0857）21-0077

救急病院 医療法人 十字会 **野島病院**
理事長・総院長 野島 丈夫
院長 山本 敏雄
倉吉市瀬崎町2714の1 ☎（0858）22-6231㈹

内科・消化器内科・小児科
医療法人 **岡本医院**
岡本欣也
岡本良子
岡本晶子
鳥取市津ノ井258-2 ☎（0857）53-2028

医療法人 宮﨑医院 **宮﨑内科医院**
院長 宮﨑博実
鳥取市吉成2-14-33 ☎（0857）21-1717

医療法人社団 **西田内科**
西田龍之介
西田法孝
倉吉市上井町1丁目142 ☎（0858）26-6205

内科・消化器内科・腎臓内科
みらい内科クリニック
Mirai Medical Clinic
院長 山本 了
倉吉市昭和町2丁目233 TEL0858-27-1144
https://mirai-clinic.info

内科・外科・胃腸内科・肛門外科
医療法人社団 **森脇クリニック** 人間ドック・健診随時
森脇良太
倉吉市新町3丁目1081-4
☎（0858）22-3387

医療法人社団 **尾崎医院**
院長 尾﨑眞人
八頭郡八頭町才代158-5 ☎（0858）76-4000

内科・消化器内科・肛門科・皮膚科
吉中胃腸科医院
院長 吉中正人
東伯郡琴浦町大字丸尾102-1 ☎（0858）53-1215

内科・人間ドック・総合健診
湯川医院
院長 湯川喜美
東伯郡三朝町三朝967-1 ☎（0858）43-3399

内科・胃腸科・消化器科
循環器科・小児科・人間ドック・健康相談
中村医院
院長 中村暢宏
米子市上後藤3-1-6
TEL（0859）29 3795 FAX（0859）29 6930

鳥取県がん診療連携協議会
とりがんねっと
がんについてともに考えませんか？

“鳥取県がん診療連携協議会”とは？
鳥取県がん診療連携協議会では、県全体のがん診療の質の向上のため、県内の主要な10病院、鳥取県、鳥取県医師会が連携し、地域における相談支援や緩和ケアの提供体制の確立、院内がん登録の充実、各病院の治療実績を共有、評価する様々な活動に取り組んでいます。

“とりがんねっと”とは？
“とりがんねっと”は、鳥取県がん診療連携協議会の運営により、がん診療に関する様々な情報を県民の皆さんへ広く提供するために開設されました。がんに関する説明や関係する外部機関へのリンク、県内で開催される公開講座・研修会など様々な情報を掲載しています。

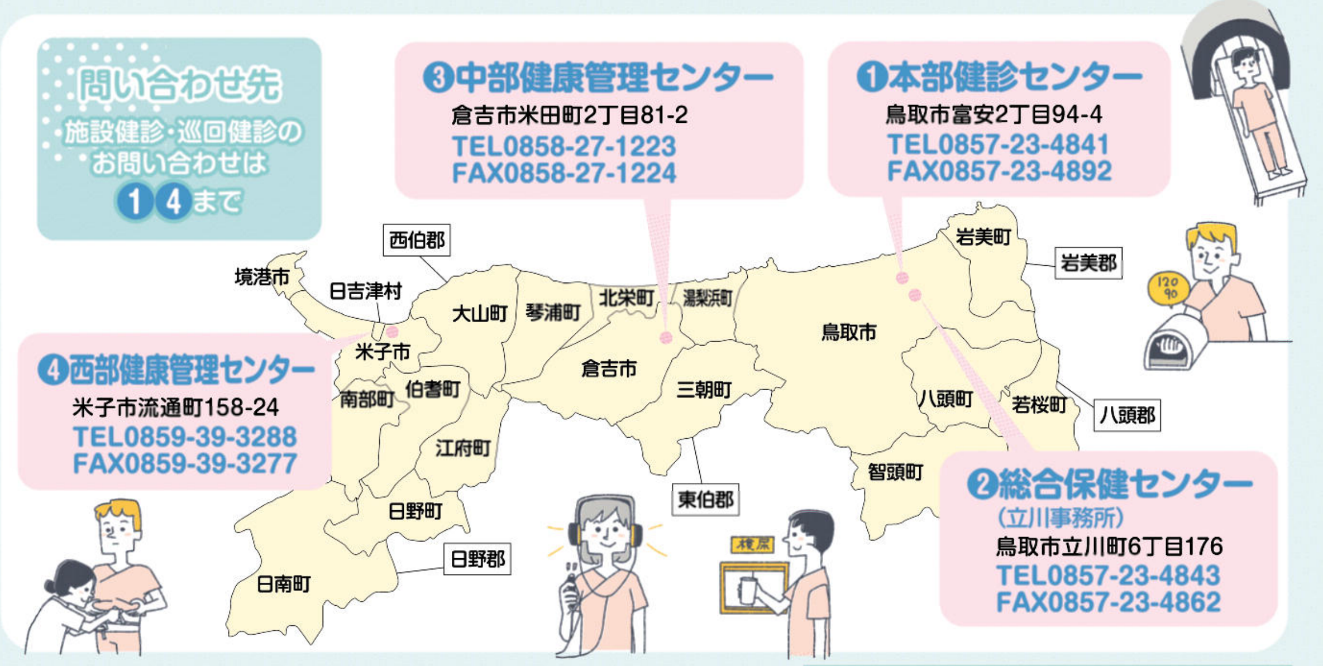
■鳥取県がん診療連携拠点病院
鳥取大学医学部附属病院
■地域がん診療連携拠点病院
鳥取県立中央病院
鳥取県立厚生病院
■地域がん診療連携拠点病院に準じる病院
鳥取市立病院／鳥取赤十字病院／
鳥取生協病院／野島病院／博愛病院
米子医療センター／山陰労災病院

“とりがんねっと”は どんな情報を掲載しているの？
■市民公開講座、イベント
■がんの事を詳しく説明した動画
■がん相談支援センター
■患者サロン・患者会
■がん検診
お気軽にアクセスしてみてください。
https://cancer-center.med.tottori-u.ac.jp/tccc/

とりだい病院がんセンターHPでもがんに関する様々な情報を提供しています。
鳥取大学医学部附属病院 がんセンター事務室【TEL】0859-38-6292
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1【FAX】0859-38-6297【HP】https://cancer-center.med.tottori-u.ac.jp

鳥取県保健事業団では、
鳥取県全域の健診・検査が可能です
当事業団では、現在15台の健診車を保有しており、県内（東・中・西部）の各基地に配車しています。施設健診だけでなく巡回健診を実施し、皆さまのニーズに合わせた健康診断に対応しています。

問い合わせ先 施設健診・巡回健診のお問い合わせは①④まで
①本部健診センター 鳥取市富安2丁目94-4 TEL0857-23-4841 FAX0857-23-4892
②総合保健センター（立川事務所） 鳥取市立川町6丁目176 TEL0857-23-4843 FAX0857-23-4862
③中部健康管理センター 倉吉市米田町2丁目81-2 TEL0858-27-1223 FAX0858-27-1224
④西部健康管理センター 米子市流通町158-24 TEL0859-39-3288 FAX0859-39-3277



職場の、そしてあなたの健康と環境を守ります
公益財団法人鳥取県保健事業団
Tottori Health Service Association
http://www.hokenjigyoudan-tottori.or.jp/

★がん検診（健康増進法に基づく）
胃がん・子宮がん・乳がん・肺がん・大腸がん・前立腺がん ほか
その他、各種健診や人間ドック、生活習慣病予防健診なども受け付けています